

# 4. ニッケルの国際市況と需給動向（2008年1月まで）

## 希少金属備蓄部

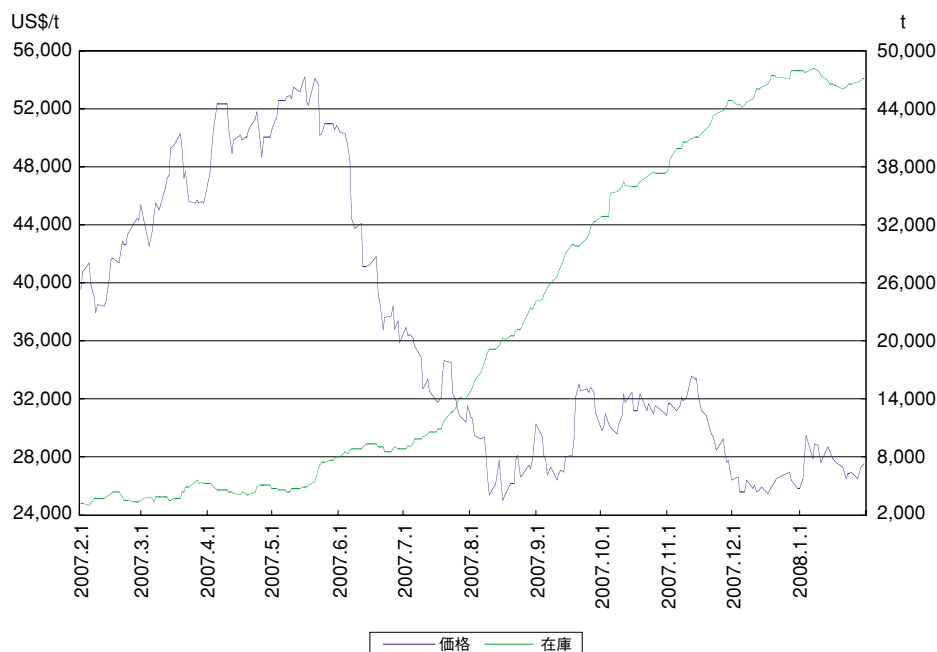
1. ニッケルの国際価格は、12月下旬27,005US\$まで上昇したが、再び25,805US\$へと下落。1月はじめ、在庫増加傾向の緩みなどから29,515US\$まで上伸したが、徐々に値を下げ、末日現在27,550US\$。
2. 2007年1～11月の需給バランスは、94.1千tの供給過剰。LME在庫量は、1月に入り増加傾向が緩み、末日時点で47,052t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2007年の世界のニッケル需給は、約13.5万tの供給過剰と予測。ステンレス需要の本格回復には、もう少し時間がかかるとの見方が強い。

### 1. 国際価格（2007年12月～2008年1月）

ニッケルの国際価格は、12月中旬まで26,000US\$前後で推移、その後27,005US\$まで上昇したが、月末には25,805US\$へと下落。1月はじめ、在庫の増加傾向の緩みなどから29,515US\$まで上伸したものの、徐々に値を下げ、1月下旬には再び26,000US\$台となった。月末には多少回復し、末日現在27,550US\$。

11月下旬、ステンレス需要の弱まりや在庫の増加を材料に、26,000US\$台にまで下落したニッケル国際価格は、12月中旬まで25,500US\$～26,600US\$の範囲で推移した。その後、欧州や北米のステンレス需要が回復に向かうなどの情報を受け上昇し、27日には27,005US\$をつけたが、月末には25,805US\$へと値を落とした。1月に入ると、在庫の増加傾向が緩んだことに加え、ステンレス需要増大との観測を背景とした

投機的要因などから値を上げ、1月4日には29,515US\$にまで上伸。しかしその後は、足元需給は依然として供給過剰であることから徐々に値を下げ、1月下旬には再び26,000US\$台を付けた。月末には、欧州でのステンレス鋼生産が回復基調にあることなどから27,000US\$台で推移し、末日現在27,550US\$（図4-1）。



ニッケル	2007年												2008年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
LME在庫 (t)	3,342	5,232	4,980	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934	37,662	44,334	47,940	47,052	
平均価格 (US\$/t)	41,184	46,325	50,267	52,179	41,719	33,426	27,652	29,538	31,005	30,610	25,992	27,690	

図4-1 ニッケル価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

## 2. 需給 (2007年1～11月)

- ① 2007年1～11月の鉱石生産は10.4% (138.6千t) の増。一次地金生産は5.1% (63.7千t) の増。消費は5.8% (74.8千t) の減。
- ② 2007年1～11月の需給バランスは94.1千tの供給過剰。
- ③ LME在庫は、2007年5月下旬より増加傾向。2008年1月に入り増加傾向が緩み、末日時点で47,052t。

## 〈需要〉

2007年1～11月のニッケル消費は1,207.2千t (金属純分、以下同様) で、前年同期比5.8% (74.8千t) の減となった。消費量第1位の中国は30.0% (69.0千t) の大幅増であったが、第2位日本は14.5% (24.5千t) の減、第3位米国は6.9% (9.2千t) の減、第4位ドイツは7.3% (7.1千t) の減、第5位台湾は23.6% (20.4千t) の減となった。

## 〈供給〉

2007年1～11月のニッケル鉱石生産は1,477.5千t で、前年同期比10.4% (138.6千t) の増となった。最大生産国のロシアは0.7% (1.8千t) の微増、第2位カナダは11.0% (23.1千t) の増、第3位インドネシアは28.0% (37.7千t) の大幅増、第4位豪州は12.2% (18.6千t) の増、第5位のニューカレドニアは21.6% (20.6

千t) の増であった。2007年1～11月の一次ニッケル地金生産は1,301.3千tで、前年同期比5.1% (63.7千t) の増となった。最大生産国ロシアは4.7% (12.2千t) の減、第5位豪州は4.8% (5.0千t) の減であったが、第2位中国は56.9% (68.9千t) の大幅増、第3位カナダは5.2% (7.2千t) の増、第4位日本は0.3% (0.4千t) の微増であった。

## 〈需給バランス〉

2007年1～11月の需給バランスは、94.1千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫は、2007年5月下旬より増加傾向となり、11月下旬には40,000t台となった。2008年1月に入り、増加傾向が多少緩み、末日時点で47,052t (表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位:千t、金属純分

ニッケル	2006年												1～12月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱山生産量	117.4	114.5	120.3	126.2	122.3	119.8	116.8	122.9	120.3	129.7	128.6	129.3	1,468.2
一次地金生産量	115.6	109.1	112.4	112.5	113.5	108.3	102.8	110.3	115.1	119.4	118.6	122.0	1,359.6
消費量	111.5	109.3	113.6	116.3	117.2	117.7	117.9	119.8	117.4	121.4	119.9	119.1	1,401.1
需給バランス	4.1	-0.1	-1.2	-3.8	-3.7	-9.4	-15.1	-9.5	-2.3	-2.0	-1.3	2.9	-41.5
ニッケル	2007年												前年同期比 (%)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1～11月計	
鉱山生産量	130.6	128.5	141.9	136.2	141.4	136.0	131.0	135.7	133.8	132.3	130.1	1,477.5	10.4
一次地金生産量	123.6	113.2	123.8	121.7	124.2	121.3	121.1	119.6	109.1	113.2	110.5	1,301.3	5.1
消費量	122.1	117.4	122.2	114.4	111.6	114.6	99.4	95.7	104.2	102.0	103.6	1,207.2	-5.8
需給バランス	1.5	-4.2	1.6	7.3	12.6	6.7	21.7	23.9	4.9	11.2	6.9	94.1	—

出典:国際ニッケル研究会

表4-2 LME国別ニッケル在庫の推移 (2007年1月～2007年12月)

単位:t

国名	2007年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベルギー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ドイツ	18	18	—	—	—	—	—	—	—	—	1,380	1,380
イタリア	—	36	72	60	108	66	48	—	—	—	—	—
韓国	2,070	1,776	2,004	1,890	2,928	3,414	3,432	3,366	2,190	1,848	1,098	36
オランダ	204	216	1,986	1,884	3,474	4,080	8,100	13,500	22,416	24,342	27,096	33,240
シンガポール	546	750	804	726	468	576	528	1,272	1,878	2,208	3,030	1,182
スウェーデン	90	—	—	330	408	120	1,704	3,276	3,318	3,540	3,660	3,846
英国	—	—	—	—	24	—	—	2,100	2,052	4,326	6,648	6,600
米国	438	546	366	90	504	600	600	810	1,080	1,398	1,422	1,656
合計	3,366	3,342	5,232	3,342	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934	37,662	44,334	47,940

出典:国際ニッケル研究会

### 3. 今後の需給見通し

国際ニッケル研究会によると、2007年の一次ニッケル地金生産は7.8%増の147.0万t、一方、ニッケル消費は4.6%減の133.5万tとしており、需給バランスは約13.5万tの供給過剰と予測している。また、2008年の需給についても、10.3万tの供給過剰と予測している。

業界紙、メディア等によると、供給については、カナダ、インドネシア等の供給力増強やBHPビリトンのRavensthorpeプロジェクト（西豪州）をはじめとする大型新規案件の生産開始により、今後も引き続き増加傾向の見込みである。一方、需要については、欧州におけるステンレス需要は回復基調にあるとの見方もあるが、世界的なステンレス需要の回復には、もう少し時間がかかるものと見られている。スーパーアロイ、電池向け用途などは好調であるものの、当面、供給過剰の状態に変化はないとの見方が強い。

ニッケル価格については、1月に入り在庫の増加傾向が多少緩んだこと、ステンレス需要に回復の兆しが見られることなどから、当面は現在の水準で推移するとの見方が強い。Metal Bulletin誌では、2008年前半のニッケル価格を20,000US\$～32,000US\$の範囲で推移すると予測している。